

—To-Collaboプログラム—

地域のご理解・ご協力に感謝申し上げます

本学が文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」の採択を受けて推進しておりますTo-Collaboプログラムは、2016年度末時点で4年目の活動を成し遂げました。

本学のUSR（University Social Responsibility；大学の社会的責任）は、本学固有の「知・人・力」を最大限に生かし、地域の課題やニーズを把握し、それらを解決するための連携活動の継続的な実施と、社会で必要とされる能力を培った学生を輩出し続けることだと考えております。

このようなUSRの視点から、本学のTo-Collaboプログラムは、全国にキャンパスを有する総合大学の強みを生かした「全国運動型地域連携活動」を柱に、地域特有の課題や全国共通の課題を基に下記の4計画8事業を設定しました。



《計画Ⅰ》 地域デザイン計画		《計画Ⅱ》 ライフステージ・プロデュース計画		《計画Ⅲ》 観光イノベーション計画		《計画Ⅳ》 エコ・コンシャス計画	
事業1 安心安全	事業2 ブランド創造	事業1 大学開放	事業2 スポーツ健康	事業1 地域観光	事業2 文化・芸術	事業1 エネルギー・ハーベスト	事業2 環境保全

この4計画8事業を本学の教職員・学生が共有、協力して解決策を見出すとともに、パブリック・アチーブメント型教育を導入し、地域連携活動を通じた社会的実践力を有する人材の育成に取り組んでまいりました。

今年度はこれまでの3年間で踏まえ、教育改革では全学必修4科目を含めたパブリック・アチーブメント型教育を担当する現代教養センターが立ち上がり、授業内容の検討とともに学部学科でのパブリック・アチーブメント型教育導入に向けた教材の作成のほか、多様なステークホルダーの方々との対話機会を設け、地域の課題を解決する人材の育成を目指した取組みを複数科目で試行いたしました。また、研究・社会貢献活動においても、教職員・学生による様々な活動が展開され、災害情報共有システムの開発、健康バス等による市民健康度チェック、商店街のグローバルマップの作成、地域の子どもたちを対象としたエコや自然環境、科学に関する教室の開催など、様々な形で地域の活動に参画することができました。

このような私たちの地域における活動の展開は、ひとえに行政や住民の皆さまのご理解とご協力があってなし得ることです。次年度は本事業も最終年度を迎え、継続した取組みとすべく、新たに地域連携センターを設置する等大学の地域連携活動のさらなる充実を図るための支援体制を整えるとともに、教育改革を進め、地域との連携を深化させ、本学が地（知）の拠点として社会への責任をより一層果たす所存です。それぞれの地域の皆さま、関係者の皆さまにも変わらぬご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

東海大学 学長